

交換留学報告書

留学先：リール政治学院（フランス）

静岡県立大学国際関係学部国際関係学科

政治経済コース 4年

2019年8月24日

◆ はじめに

私は2018年8月30日から2019年6月26日（現地日時）までの10か月間、フランスに滞在し、リール政治学院に留学をしました。私は第二言語としてフランス語を大学で学習していたので、自らのフランス語能力を向上させるため、また日本と全く異なる環境で生活し、さまざまなバックグラウンドをもった人たちと交流するために留学をしました。

◆ 学校生活

リール政治学院はフランスの **Grandes Ecoles** の一つであり、諸外国の留学生はもちろん、一般の学生のレベルは非常に高く、10か月間でしたが、彼らと同じ教育環境で勉強できたのは、私にとって非常に良いモチベーションになりました。



リール政治学院の授業の難易度は私にとって非常に高かったです。私は **CEP** (**Certificat d'Etudes Politiques**) 取得を目標とするコースに所属していました。CEP では取得条件には最低限取得しなければならない単位が決められており、そのうちフランス語での授業を最低3つ通年で取らないといけないため、私にとって未体験の課題の重さと量で、バカンス中でも常に何かしらの課題に追われている環境でした。さらに大変だったのは CEP 最後の試験、**Grand oral** でした。Grand oral とは口頭試験のことで、最初にくじで引いたお題に

ついてプレゼンテーションするために1時間の準備時間が与えられます。その後10分間二人の試験官の前でプレゼンテーションをし、その後10分間は質疑応答の時間です。Grand oralは10か月間の留学生活の集大成でしたが、質疑応答では思うように言葉が出ず、試験が終わってみて得られたのは、まだまだ自分はフランス語ができないという実感でした。このことは残念でしたが、この試験によって帰国後もフランス語を引き続き精力的に勉強を続けていこうと思う良いきっかけになりました。授業の成績評価は、出席、プレゼン、エッセイ、テストなどでしたが、その中でも大変だったのはプレゼンテーションとエッセイでした。もちろんすべてのプレゼンテーションとエッセイは英語かフランス語で行わなければなりません。いつまで経っても慣れずに大変でしたが、おかげで日本語どころか、英語でのプレゼンテーションやエッセイに抵抗がなくなりました。学校生活は非常に大変でしたが、リール政治学院だから出会えた人がたくさんいて、この学校だったから受けられた授業もたくさんありました。リール政治学院で留学生活を送ることができて、本当に幸せでした。

リール政治学院では、1年を9月から12月の秋 Semester と1月から6月までの春 Semester の二つに分かれています。世界中から留学生が集まり、様々な文化交流ができます。しかし多くの留学生が1 Semester で帰国してしまうため、Semester がおわる時期は留学生の友だちとのお別れのシーズンでもあり、さみしい時期でもありました。



◆ 日常生活

フランスが日本と1番異なる点は多民族国家であることです。街に一步踏み出せば白人、黒人、アラビア系、アジア系、あらゆる人種の人たちが共生しています。バリバリアジア人顔の私でも街で歩いていると、フランス人に何度も道を聞かれました。これこそがまさに多民族国家で生活するということだと思います。私は1 Semester 終わってやっと、耳が素直にフランス語を言語として、理解すべき言語として受け入れられるようになりました。そのため1 Semester だけでなく、2 Semester 留学してよかったと思います。



一番苦勞したことは、自分でフランス語を話す機会を作ることでした。留学してから初めてわかり、非常に驚いたのですが、自分で意識的に機会を作らない限り、フランス語を話す機会はそこまで多くないということです。普段は寮で一人部屋なので、部屋にこもってしまえば誰とも話すことはありません。スーパーに買い物に行っても、店員さんとする会話はたいてい決まったものであるため、新しいボキャブラリーはそこまで増えません。また、留学生の中には全くフランス語を話さない人もいるため、私の場合ほとんどの留学生とは英語で会話をしていました。そのため、私はフランス人の学生しかいないバドミントンの授業に参加したり、学校以外でフランス人と関わりが持てるように日本人学校でア

シスタントをしたり、フランス人の友だちを積極的に遊びに誘ったりしていました。このようにして、意識的にフランス語を話す機会を作っていました。



◆ おわりに

正直に言うと、自分のフランス語レベルは留学当初に期待したほどは伸ばせませんでした。留学終盤になっても、難しいことばかりで打ちのめされてばかりでした。フランス人の友だちと遊んでも、楽しい反面いつも自分のフランス語能力の低さに落ち込みました。しかし、自分の留学生活に後悔はありません。さまざまなバックグラウンドを持つ人たちと関わる中で、自分が無意識に偏見を持っていたことに気が付きました。また日本を海外から見てみることで、それまでは見えてこなかった日本の側面に気が付きました。周りの人から日本について聞かれることがよくあり、自分は日本人なのに日本のことちゃんと知らなかったことに気が付かされました。よく友だちと話していると、正解を問われる質問ではなく、私の意見を聞かれることがよくありました。最初はそういった質問に驚いてあまり答えられなかったのですが、何事に対しても自分の意見を持つことの大切さを学びました。また、この留学期間はひたすら自分自身、自分の弱さと向き合い続けた時間でした。自分にはないものばかり見えてきて辛いこともたくさんありましたが、それまでには知らなかった自分を知ることができました。

留学でフランス語能力を伸ばすということよりも、日本とは何もかもが違う国で暮らしたり、フランス以外の国に行ったり、いままで関わったことのなかった人たちと交流することこそが留学の意味であったように思います。

このような貴重な経験をする機会を与えてくださった、大学、家族、先生、世界中の友人、すべての方々に感謝したいです。

フランス留学 リール政治学院

静岡県立大学 国際関係学部
言語文化学科 4年 英米文化コース

大学3年の秋から大学4年の夏まで、フランスの大学とは別のグランゼコールの1つである、リール政治学院に留学しました。何がきっかけでフランス留学を決意し、フランスでの一年何を勉強し、どのように生活していたのかここで報告させていただきます。

フランス留学を考え始めたのは、留学する10ヶ月ほど前です。それ以前は英語やイギリス文化への興味が大きかったのでイギリス留学を検討していました。しかし、航空業界への就職を目標にしていた私は、英語以外の言語力が就活の際に武器になるであろうと考え、第二言語学習で選択していたフランス語での留学を決意しました。

そして2018年9月、フランス生活がスタートしました。日常生活や風景全てが新鮮で、フランス生活に胸を膨らませる一方で、最初は言語の壁にぶち当たり悩みました。そして到着してから約二週間後、本格的に学校の授業が始まりました。リール政治学院ではフランス語の授業だけでなく、英語での授業も開講していたので、両方受講しました。授業内容はもちろん政治が中心ですが、経済や文化など様々です。英語の授業は、授業の内容をほとんど理解でき、あとはどれだけグループでのディスカッションやプレゼンで自分のスピーキング力を上げられるかが課題でした。その一方でフランス語での授業は、最初は全くついていけず、聞き取れた単語をノートに書いたり、授業後に友達にノートを見せてもらい理解するので精一杯でした。しかし、授業になれるにつれて、聞こえる単語が多くなり、徐々に授業内容も自力で理解できるようになりました。授業の中でも、経済とフランスの現代政治についての勉強が特に面白かったです。政治も経済もしっかりと勉強するのはこの留学が初めてでしたが、自分が興味のあるテーマであると発見できました。政治は実際にマクロン 大統領がどのような政策を取っているのか、現在進行形で学べたことが面白かったです。また私が留学した年は、首相による燃料税引き上げ宣言に対して、gilets jaunesという大規模なデモが長期で起こりました。これは、実際にフランス国民が政治に対してどのように関心を持ち、また現在ヨーロッパで問題視されている民主主義のあり方にも結びつく出来事でした。こうして、プレゼンや学期末の課題に追われているうちにあっという間に、1学期が終わりました。たった4ヶ月だけでも、多くのことを学びました。約一ヶ月の冬休みを挟んで、二学期が始まりました。授業の内容が重いのはもちろんですが、課題も授業前に読んでおかなければならない資料がたくさんあります。前期では、この課題と復習をうまく両立することができなかったのでその失敗を生かし、後期ではより計画的に進められたと思います。ほとんどどの授業でも最低一回はプレゼンがあったので、人前で外国語を話すことにも以前よりはだいぶ慣れたと思います。後期の中で印象的だったことの1つに、学生による環境問題のデモに参加したことが挙げられます。

FACEBOOKを通して学生のデモへの参加が呼びかけられ、実際に数千人もの学生がリールの中心地に集まりました。このデモへの参加がきっかけとなり、私の環境問題への関心が高まり環境への配慮を心がけるようになりました。学期末は、テストを受ける授業もありますがレポート提出の授業が多かったので、後期の終わりはひたすら、文献を集めてレポートを書くことに集中しました。そして一年の中で一番緊張したであろう口頭試験が学期末にありました。私は、政治学を学んだという証明書がもらえるプログラムに申し込んでいたのでこの試験をパスすることが必須でした。くじで引いたお題に対して、1時間でプレゼン内容を作り、そのあと先生方の前で発表し質問に答えるというのは、決して簡単なことではありませんでしたが、なんとか乗り越えることができました。この試験を終えて、あっという間にフランスでの学生生活が終了しました。

平日は学校に通う一方で、夜や週末は友達とフランスでの生活を存分に楽しみました。留学生の友達が多かったので、様々な国籍の人と交流するのはたくさんの刺激を受けることができます。特に私が留学した学校は政治学が専門であったので、政治に関心の高い学生と多く交流し、その学生の意識の高さに、自分の知識不足を痛感しながらも自分ももっと勉強したいという興味を掻き立てられたと思います。ヨーロッパの学生はオンとオフの切り替えがはっきりしているので、夜はお互いにそれぞれの国の料理を作ったり、ドリンクパーティーをしたり、友達と有意義な時間を過ごせたと思います。フランス人の休日の過ごし方は日本とは大きく異なると感じました。基本的に日曜日はほとんどどの店も閉まっています。なので公園で遊ぶ親子が多く見られたり、フランスでは毎月第一日曜日は美術館などの公共施設が無料で開放されるのでそこで芸術作品に触れたり、また街で小さなものから大きなものまでいろんなイベントが開催されているので、多くの人がそういった場所で家族との時間を大切にしていると思いました。これも新たな発見でした。冬休み、春休み、夏休みと割と長めの休みが三回あったので、バカンス中はいろんな国へ出かけました。リールから電車でパリやロンドン、ブリュッセルなど主要な都市に行けますし、パリやブリュッセルの空港にも手軽に行けるので飛行機を利用してヨーロッパを旅行することも簡単でした。ヨーロッパの風景は一見似ているよう見えても国によって違いがあります。その国の人と触れたり、その国の伝統料理を食べたり、旅行するときは毎回何かしらの新しい発見や経験ができます。

こうして勉強と余暇を繰り返すうちにあっという間に一年のフランス留学が終わりました。帰るときには、本当にリールを離れるのが嫌だと思うくらいリールに愛着がありました。この一年で得られたことはたくさんありますが、大きく分けて3つです。語学力の向上、勉強意識の向上、自立です。語学力を上げるのに最適な方法はやはりその言語のネイティブと会話することです。日本で勉強していったフランス語の喋り方やスピードとは全く違います。実際のスピードや発音になれることが重要だと思います。また、フランスの学校で勉強意識の高い学生出合い多くの刺激を受けました。友達と議論するにはやはりある程度の知識が必要であり、自分にはそれがまだまだ足りていないと痛感しました。また自分が興味ある新しい分野を発見できたことも勉強意欲が上がったことの要因です。最後に、私はこの留学が初めての一人暮らしでした。それまで実家暮らしであった私にとって慣れない環境での一人暮らしは戸惑うこともありましたが、いろんな問題を乗り越え、ちょっとしたハプニングでは動じず冷静に解決しようとする力がついたと思います。

リール政治学院に留学できたことは、自分自身を成長させ、さまざまな人や文化に触れる多くのチャンスを与えてくれたともいます。そしてもっとフランス語力を向上させ、将来はフランスと日本を結ぶような職業に就きたいという新たな目標ができました。この留学での経験を生かし、自分の目標に向かってまた精進します。